

「太鼓坊主」展開例

1 主題名 目標達成のために 【内容事項1－(2) 希望、勇気、強い意志】

資料名 「太鼓坊主（てこぼうず）」

2 本時

(1) ねらい 自らの目標達成のために、どんな時にも希望を持ち続け、障害や困難に立ち向かう勇気や強い意志を持って、最後までやり抜こうとする心構えを育てる。

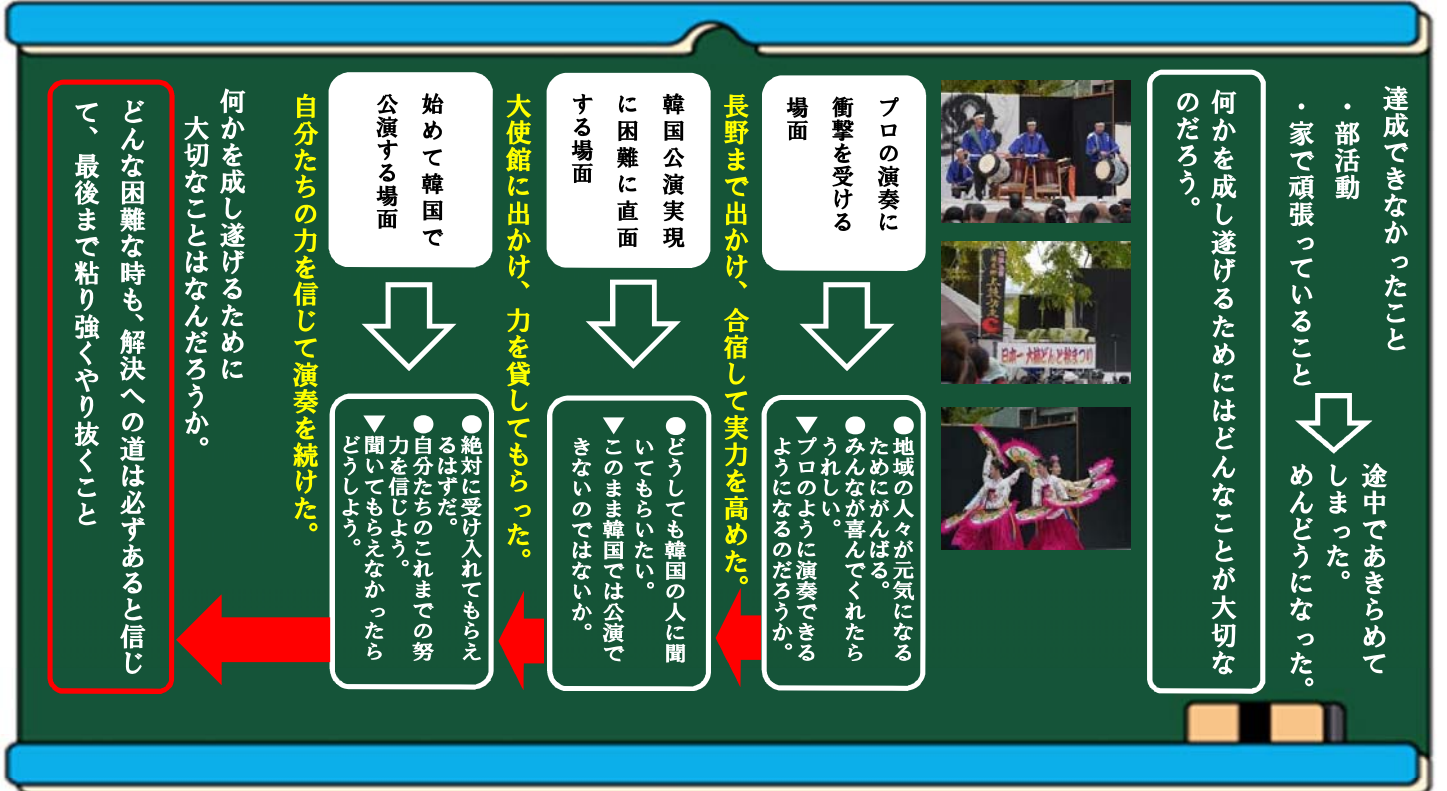
(2) 実際

過程	主な学習活動と予想される反応	時間	教師の働きかけ
気づく	1 目標を決めて取り組んだことについて経験や心情について話し合い、考えたい問題に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成できた。 ・ 途中であきらめてしまい達成できなかった。 2 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 何かを達成するためにはどんなことが大切なのだろう。 </div>	10	○ 実態調査の結果などから、実際の生活の様子を振り返らせ、やり遂げた時の達成感から、達成できなかった時の残念な気持ちを振り返らせ、達成するための方策を考えさせるための課題を設定できるようにする。
つながる	3 「太鼓坊主」や韓国の団体の演奏の様子を見せ、目標達成の過程を想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かが韓国の人と知り合いだった。 ・ 一生懸命練習した。 4 資料を読み、太鼓坊主が大切にしていた考えについて追求したい場面を焦点化する。	7	○ 「大きくずどんと秋まつり」で韓国の団体が演奏する様子を見せ、国際的な交流が行われていることに気づかせ、ここまでに至る経緯を考えさせる。 ○ 資料を教師が読み、太鼓坊主の直面した場面とそれを克服した部分に線を引かせる。
考える	5 太鼓坊主の行動から、彼らの場面ごとの思いを追究する。 (1) プロの演奏に衝撃を受ける場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々が元気になるためにがんばる。 ・ みんなが喜んでくれたらうれしい。 ・ プロのように演奏できるようになるのだろうか。 (2) 韓国公演実現に困難に直面する場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしても韓国の人に聞いてもらいたい。 ・ このまま韓国では公演できないのではないか。 (3) 始めて韓国で公演する場面 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶対に受け入れてもらえるはずだ。 ・ 自分たちのこれまでの努力を信じよう。 ・ 聞いてもらえなかったらどうしよう。 	18	○ 太鼓坊主の直面した困難をどのように克服したか状況について話し合わせることで、道徳的価値の自覚を深めさせたい。 ○ グループを作り、場面ごとについて話し合う。 ○ 話し合った内容をワークシートに記入し、グループごとに発表させる。その際、場面ごとの担当グループを決め、各グループに発表内容をディスプレイに映し出しながら発表させるようにする。 ○ 各グループの発表内容を基に、多様な意見を出させ、複雑な内面性に触れさせ、道徳的価値を深める。 ○ メンバーの心の葛藤を視覚的にとらえることができるように板書を工夫する。
振り返る	6 これまでの自分を振り返り、これからの自分についてワークシートに書く。	10	○ 自分の目標に向けて、今後どう取り組んでいくか、実生活を振り返らせ実生活に役立てる。
つながる	7 自分の目標に向けて努力し、達成した人の話を聞く。	5	○ 蒲生町の活性化に努めた人の思いや考えを、聞かせる。



- ・ 太鼓坊主のこれまでの経験を学ぶことを通して、生徒一人一人が自分の目標達成に向けて、これからの行動に活かせるように意識できるようにしたいです。
- ・ 実際に蒲生町の『大きくずどんと秋まつり』に行ってみると雰囲気はよく分かります。(例年11月に、蒲生八幡神社、蒲生小学校などを会場に開催)

「太鼓坊主」板書・発問例



○ 実態調査の結果などから、達成できなかった時の残念な気持ちを振り返らせ、達成に向けての課題を設定できるようにする。

○ 「大きくすとんと秋まつり」で韓国の団体が演奏する様子を見せ、国際的な交流が行われていることに気づかせ、ここまでに至る経緯を考えさせる。

○ 資料を教師が読み、太鼓坊主の直面した場面とそれを克服した部分に線を引かせる。

○ グループを作り、場面ごとについて話し合う。

※ 話し合った内容をワークシートに記入する。

※ 場面ごとの担当グループを決め、各グループに発表内容をディスプレイに映し出しながら発表させる。

○ 多様な意見を出させ、複雑な内面性に触れさせ、道徳的価値を深める。

※ 発表内容を基に意見交流させる。

※ 各場面におけるメンバーの心の葛藤を視覚にとらえられるように板書を工夫する。

(例：●は前向きな思い、▼は心の弱さ)

○ 自分の目標に向けて、今後どう取り組んでいくか、実生活を振り返らせ実生活に役立てる。

POINT

- 実物投影機などを用いると、子ども達のワークシートに記入したものを、学級で共有できます。また、小黒板などを用いるとよいでしょう。



〈参考〉
実物投影機の使用の様子

POINT

- 実際に「大きくすとんと秋まつり」の様子や太鼓坊主の演奏風景を、写真や動画で紹介して臨場感を高めると効果的です。
- ビデオのデータは、DVD にまとめ、各小・中学校に1枚ずつ配布します。是非、ご活用ください。